



## No.91 クオータ制 導入すべし 日本の不思議な風景から考えたこと



(日本の風景 写真はBIGLOBEニュースから)

ダイバーシティとか、インクルーシブとか、最近よく聞くようになりました。政府も「多様性を認め合う包摂的な社会を目指す」と言っていますが、結局女性やマイノリティが大事な意思決定に関わっていない実態があるからこそ、声高に呼ばれているのでしょうか。

確かに多数決原理で言えば多数派がルールを決めて少数派が従うことになってしまふかもしれません、そのルールが宗教や家族問題のようにマイノリティの人生に深刻な苦痛を与えるならば、多数派もその痛みを無視してはいけません。多数派vs少数派という構図は世界中どこでも起こりうるわけで、マイノリティの深刻な痛みにどのぐらい共感できるか、それが社会のクオリティを決める気がします。日本社会はかつて被差別部落問題に向き合い、「差別」という人の心の中の問題に対して政府は教育を含めて正面から取り組みました。現代のヘイトクライムや性的マイノリティの問題に向き合う時、共感どころかマイノリティに対して敵意を剥き出しにする人もいます。しかし教育や世代交代によって人の意識も変わります。行政や政治家、裁判官がこの問題をどう言語化しリードするのか、見識が問われます。



# 谷口博文の政策イノベーション

Date :2023年2月12日

女性はマイノリティではありません。むしろ多数派です。しかし議会や会社の役員会など社会の重要な意思決定プロセスで大きく疎外されているのが現実です。ジェンダーと関係なく人として個人の資質能力意欲に委ねているだけだと言う人は多いでしょう。しかし結果として多数決の場で女性がマイノリティの悲哀を感じ、しかも日本では長年変わらないのも確か。それが正常かいうと異常だと思います。そもそも国民の半分を占める女性の顔が表舞台で見えないのは変！このままでいいか？ そんなことはない！

伝統的な役割分担意識を肯定する多数派が見えないルールを作っている以上、男女の競争条件は同じじゃないわけで、個人の資質能力意欲に委ねるというのは公平のように見えて公平ではありません。

教育と世代交代によって社会の意識が変わるまでの間、議員定数の一定割合を女性に割り当てるクオータ制は、日本にとって必要なことだと思います。世界中100カ国以上で導入されていて、問題が生じたという話は聞いたことがありません。

スタートアップ企業はもっと前向きに、イノベーティブで誰にも快適な社会を作るためには多様性が不可欠だとして女性やマイノリティを積極的に登用しています。社会を変える若い世代に大いに期待しています。